

保健部

部長：亀野 克城 副部長：尾藤 方美

【保健・安全】

(1) 今年度の目標

「3年間を見通した自主的・自律的な態度の育成」

- ① 自己の健康を主体的に管理できる力を育成する。
- ② 心の健康を充実させる。
- ③ 快適な環境の整備を行う。

(2) 主な取り組みの計画

① 健康診断

ア 事前に「健診の意義」や見つかる病気等について周知し、健康に関して関心を持たせるとともに、自分の健康状態について把握できるようにする。

イ 健康診断の結果、異状がある場合は、早めに「医療機関に行くように生徒に指導」とともに、懇談などの機会を利用して保護者にも連絡する。

② 健康管理

ア 熱中症予防（1年生）や心肺蘇生法の講習会（1年生・教職員）を行う。

イ 保健室来室時に「利用カード」を記入させることにより、体調を崩した原因や生活習慣について考えさせる。

ウ 保健室前の掲示板や黒板に、様々な健康に関する資料を掲示することにより、生徒が健康に関して興味や関心を持つようにさせる。

③ 生徒保健委員会

ア 「保健だより」を作成して、SHRなどでその時々の健康に関する説明を行う。

イ 健康についての課題を見つけ、研究し、その成果を学校保健委員会で保護者等に発表することにより、保健委員の活動について理解を深めてもらう。前回は「学校施設の安全について」アンケートをとり、発表した。

④ 心の健康

ア 心に問題を抱える生徒に対して、関係職員、スクールカウンセラーおよび保護者と連携し、支援する。

イ 保健室利用状況を担任や学年主任等に知らせることにより、心の問題を抱える生徒を早期に発見し、早期に対応する。

ウ 3年生対象にスクールカウンセラーによるメンタルヘルスの講演会を行う。

⑤ 環境の整備

ア 水質検査、照度検査、教室の空気検査など「環境検査」の結果を知らせることにより、環境に関心を持たせる。

イ 冷暖房時の温度設定や換気など「適切な管理」ができるようにする。

ウ 月末の安全点検の結果を知らせることにより、どのような環境が自分の健康に被

害を及ぼすとともに、施設や設備を大切に使用する意識を持たせる。

エ 定期的(学期ごと)に「校内を巡回して不要物が放置されていないかチェック」を行い、あれば処分する。

⑦ 安全

ア 年間3回安全点検を実施し、危険箇所は早期に修繕する。

イ 保健委員が安全点検を実施し、整備しようとする意識を持たせる。

⑧ 学校衛生委員会

ア 衛生委員会を年間10回開催し、職員の健康増進を図り、職場環境を整備する。

⑨ 防火・防災

ア 学校防災計画を策定し、避難訓練や1年生を対象に防災訓練を実施する。

⑩ 性教育

ア 2年生を対象に命の大切さについての講演会を行う。

(3) 成果

① 健康診断等

・事前に「健診の意義」や見つかる病気等について周知することにより、検診に対して受け身ではなく、自分の健康状態について関心を持って受けることができた。

② 健康管理

・6月の保健HRで1年生対象に、大塚製薬の藤田順久様による熱中症の講演や日本赤十字社香川県支部指導員による心肺蘇生法の講習を行った。

③ 生徒保健委員会

・生徒保健委員会で今回は「丸高生の防災意識に関するアンケート」を実施し、学校保健委員会で発表し、生徒、教職員、保護者、学校医とともに協議する場を設けることができた。

④ 保健室経営

・来室時に「利用カード」を記入させることにより、体調を崩した原因や生活習慣について考えさせることができた。
・保健室利用が多い生徒について、担任・学年主任・教育相談部長と連携しながら生徒に対応することができた。

⑤ 心の健康

・10月の3年保健HRで今回は「自己分析してストレスと上手く付き合っていこう～『エコグラム』で自分を知ろう」というテーマでスクールカウンセラーの井上滋子先生に講演していただいた。
・9月の厚生委員会では「子どもの自立と親のかかわり方～親の自立も問われる～」というテーマでスクールカウンセラーの井上滋子先生に講演をしていただいた。
・このような講演を通して、担任、保護者、スクールカウンセラー、教育相談部との連携を図ることができた。

⑥ 環境の整備

・インフルエンザの流行時には週番活動、学級長と連携して教室の換気を行った。

⑦ 安全

・安全点検を各学期に1回実施し、危険な箇所については早急に修繕した。

⑧ 学校衛生委員会

- ・衛生委員会を開催し、職員の健康増進や職場環境について協議し、一部改善することができた。西館、本館についても施設・設備について検討することができたが、対応できていない部分もある。

⑨ 防火・防災

- ・防火訓練に関しては、1年生を対象に丸亀市危機管理課、丸亀市城西地区自主防災会、丸亀市川西地区自主防災会の皆様にご協力頂き、防災研修を実施し、訓練の大切さを実感させることができた。

⑩ 性教育

- ・11月の2年保健HRで「妊娠と出産について」というテーマで高松赤十字病院助産師の高橋美佐子先生と香川大学医学部看護科助産師の松下有希子先生に講師としてお越しいただき、命の大切さや出産後の父親と母親の役割について学習させることができた。

(4) 課題と次年度以降の改善策

- ・今年度の環境衛生検査の結果、プール水の検査（一般細菌数、ろ過機装置出口濁度）において異常があった。学校薬剤師指導助言としては、24時間オーバーフローの徹底が必要だということであった。
- ・心に問題を抱える生徒が増えてきている。心に問題を抱える生徒に対して、担任、教育相談部等と連携し、早期に気づくことができるような体制づくりや相談体制づくりが必要である。保健室では他の生徒がいて相談できないこともあるため、保健室で相談できる環境づくりや保健室以外で相談できる体制を教育相談部と連携し、作っていく必要がある。
- ・学校保健委員会では、前年度の結果報告や今年度の取り組みについて意見が交わされた。今後は、生徒の健康問題について、職員・生徒・保護者・学校医と協力して解決できるような体制をつくれぬか、検討する。
- ・学校衛生委員会からの職員への啓発など、活動を充実させるために来年度は、職員会議等を使った全員参加型の学校衛生委員会を増やすことができぬか、検討する。